

ようこそ、笑顔咲く長崎県へ

Nagasaki Discovery Magazine ni-ko-ri

長崎県

ながさき
にこり



こころに美味しいまち

西海市

No.
22

世界文化遺産候補

明治日本の 産業革命遺産 九州・山口と関連地域

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が世界文化遺産候補としてユネスコに推薦されました。

福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、山口県、岩手県、静岡県の8県にわたる23の資産で構成され、本県では、端島炭坑(軍艦島)を含め8つの資産があります。

これらの資産は幕末から明治期にかけて、日本が、造船、石炭、製鉄・鉄鋼などの重工業分野において、西欧地域以外で最初に急速な産業化を遂げた一連の過程を示す産業遺産群です。

長崎県は「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の世界遺産登録を推進しています。

〔資産所在地:長崎県 長崎市〕

小菅修船場跡

長崎造船所 第三船渠

長崎造船所 旧木型場

長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン

長崎造船所 占勝閣

高島炭坑

端島炭坑

旧グラバー住宅

世界遺産登録推進室 TEL.095-894-3171

写真/小菅修船場跡

にこり

表紙のはなし ハノ子サブレ
ハノ子島とその頂にある十字架をモチーフに、長崎県特産のびわとみかんの蜂蜜を使った風味豊かなお菓子です。

平成26年3月発行
編集・発行/長崎県広報課 〒850-8570 長崎市江戸町2-13
TEL.095-895-2021 メール:ni-ko-ri@pref.nagasaki.lg.jp
デザイン/(有)イースワークス 印刷/(株)インテックス
http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kenseijoho/koho/johoshi/

長崎県

定期購読(無料)の申込はこちら





長

崎県の西端、西彼杵半島にある
西海市。このまちの大きな魅力

は、エリアによって異なる表情を見せてくれることだ。大村湾に面し、楽しい観光スポットが点在する西彼町、風光明媚な風景が広がり、海産物の宝庫でもある大瀬戸町、造船の島・大島町、捕鯨や炭鉱の歴史が残る崎戸町。中でも、起伏に富んだ地形で山海の幸に恵まれた西海市には、世界に誇る歴史が眠っている。

西海市にある横瀬浦を訪ねた。小さな港は時が止まっているかのように静かだ。けれども今から約四百五十年前、この港にはポルトガル船が入港し、まちは人々であふれかえっていた。しかしその繁栄も一年余り。一夜にしてまちは滅びてしまう。一体このまちに何が起きたのか――。歴史に翻弄された横瀬浦を歩く。

こころに
おいしいまち

西海市

横瀬浦公園内の
体験学習棟で展示されている
横瀬浦天主堂の鐘のレプリカ。
約450年前、聖なる音を響かせた鐘は
下から見上げると、
十字架の形が印象的。

キリシタン大名が 誕生したまち

一 五十六年、横瀬浦は平戸に代わる南蛮貿易の港として開港した。時の領主大村純忠が貿易における免税や布教の自由などの特権を与えたことから、横瀬浦は大いに賑わったという。わずかな数戸しかなかった寒村にポルトガル船が入港したことで多くの商人たちが押し寄せ、村は目覚ましい勢いで発展した。

純忠はこの地で洗礼を受け、日本初のキリシタン大名となった。もちろん横瀬浦の住民もみなキリシタン教徒であった。日本には数多くのキリシタン大名が存在したが、その始まりはここ横瀬浦だったのである。

横瀬港に立つと、すぐ目の前にまるで「お椀をひっくり返したような形をした八ノ子島が見える。島の頂上には大きな白い十字架が立ち、大変印象的な風景を作り上げている。これは、横瀬浦を訪れたポルトガル船の船長が三日三晩、島の頂上に光り輝く十字架の幻を見たことから、その後島の頂上に十字架を立てたという。以来、真っ白な十字架は横瀬浦に入港する船の目印となり、降り立った宣教師や船乗りたちはこの港を「お助けの聖母の港」と呼んだという。

港のすぐそばにある横瀬浦公園で「さいかいガイドの会」の方々と待ち合わせをした。横瀬浦公園の入口には、宣教師ルイス・フロイスの銅像がある。「日本史」の著者として知られるルイス・フロイスは数々の記録を書き残している。ガイドの高島正和さんは「織田信長の顔や人柄など当時の人々や生活様式が分かるのも、彼のおかげです。そのルイス・フロイスが日本で初めて上陸したのは、ここ横瀬浦なんです」と話す。等身大だという銅像は一九八センチ。当時の日本人たちは大柄な外国人にさぞ驚いたに違いない。

開港後すぐに建てられたのは教会だった。港周辺にはキリシタン教徒の集落ができ、彼らの耳には毎日美しい鐘の音が聞こえていたことだろう。フロイスはこう記している。横瀬浦は日本で最も知られたキリシタンのまちになった——と。

八ノ子島

ルイス・フロイス
銅像

横瀬浦 開港と繁栄



2008年に整備された巡礼地は、新たな祈りの場として多くの信徒が訪れる。朝日に照らされて十字架が光り輝いていた。



記録によれば、南蛮人は小波止の大きなハゼの木に舟をつないで教会へ行ったという。今も小波止があった場所にはハゼの木が植えられている。



横瀬浦公園内のモニュメント。白い3本の柱は、横瀬浦にゆかりのあるコスメ・デ・トルレス神父、ルイス・デ・アルメイダ修道士、ルイス・フロイス神父の3人を表現している。



横瀬浦のまちには、江戸時代のものと思われる石垣が残る。石垣は変わりゆく時代を見続けてきた歴史の証人である。

すべては
焼き尽くされた。
そして
残ったものは――

横瀬浦が栄華を誇ったのは、わずか一年余りだった。純忠の義弟後藤貴明の乱によって、まちは一夜にして焼き尽くされてしまう。その後、ポルトガル船の入港地は福田を経て、長崎へと移っていく。高島さんはこう話す。「横瀬浦にはキリスト教が繁栄したことを示す遺跡が何もありません。しかし、そこそがキリスト教の形跡を徹底的に排除したという証拠です。現在、横瀬浦にはキリスト教徒は一人もいません」。

歴史に「もし」は禁物といわれる。しかし高島さんは「もし焼き討ちがなければ、ここは長崎だったかもしれません」と言う。まちを歩けば、確かにそこには「もうひとつの長崎」を感じる。キリスト教徒たちの集落だった「上町・下町」。遊郭があったという「丸山」。丸山へ向かう通りの途中には「思案橋」。どれも、今も長崎にある地名と同じだ。「地名に関しては色々な説がありますが、横瀬浦が開港したときに名づけられたと考えるのが自然ですし、なによりロマンがありますよ」と高島さんは笑った。小さな港町には何も残っていないが、歩けば教会や集落、遊郭などの位置関係から当時のまちを立体的に想像することができた。

横瀬浦公園の奥には鉄製の十字架が輝いている。西海市は天正遣欧使節の一人、中浦ジュリアンの生誕地。二〇〇八年に中浦ジュリアンが福者となったことを記念して、この場所に巡礼地が整備された。この巡礼地は当時、横瀬浦にあった教会の半分の広さを表現しているという。祈りの場には「1562-1563」と書かれたプレートがある。わずか一年余りの間に小さな寒村は国際都市となり、一夜にして消滅した。その輝きは一瞬ではあったが、日本におけるキリスト教繁栄の基礎を作り、歴史上の大きな役割を果たした。この一年には大変重要な意味があるのだ。

すべては焼き尽くされた。しかし今も人々の心には歴史が息づいている。現在の八ノ子島の十字架は南蛮船来航四百年を記念して再建されたもの。その土台にはかすかに当時の面影が残されていたという。

※巡礼者：カトリック教会で、死後その聖徳を認められた者に対して教会より贈られる称号。
※巡礼地：宗教上、神聖な場所として崇敬されて巡礼者が訪れる地。教会など宗教施設のこと。

横瀬浦繁栄

1562—1563

さいかいガイドの会
西海市観光協会
西海市西彼町塩場1686-1
TEL.0959-37-5833
西海市観光協会 検索

(左から) 前川節子さん
高島正和さん
渡田政雄さん



遊郭があったといわれる丸山には「長袖さま」と呼ばれる遊女の墓が残っている。



ジュリアンの 故郷を訪ねて

— 五八二（天正十）年、長崎の港からヨーロッパへと派遣された四人の少年たちがいた。伊東マンショ、千々石ミゲル、原マルチノ、そして中浦ジュリアンである。天正遣欧使節と呼ばれた彼らはヨーロッパで熱烈な歓迎を受け、ローマ教皇やスペイン国王にも謁見。しかし日本を世界に知らしめ、最新のヨーロッパ文化を持ち帰った彼らを待っていたのは、厳しい現実だった。八年五ヶ月ぶりに帰国した日本には既に伴天連追放令が出されており、彼らは禁教という時代を生き抜くこととなる。

禁教令の下、天正遣欧使節の偉業は完全に封じ込められていた。彼らが歴史に登場するのは明治になり、キリスト教禁止の高札が撤廃されてからである。それは海外に残されていた記録によって明らかとなった。中浦ジュリアンの生誕地が西海市の中浦、俗名で「館」と呼ばれる場所であることが判明したのも昭和三十年代に入ってからだという。

出生の地に造られた「中浦ジュリアン記念公園」では、ジュリアンの一生を壁

画で紹介している。最も目をひくのは、ローマ教皇に謁見する場面。高熱のため公式の謁見に加わることができなかったジュリアンは、謁見式の前に単独で謁見することを許され、教皇に優しく抱擁されたという。それは彼の一生の中でも最も輝いていた瞬間だった。

帰国後、ジュリアンは司祭となり、布教活動へ一生を捧げる。キリスト教への弾圧が激しくなる中でジュリアンは潜伏していた小倉で捕えられ、長崎へと送られた。最も苦しい拷問といわれた穴吊りの刑に処されたものの、最期まで信仰を貫き通した。刑場で彼はこう叫んだという。「私がローマに行ったジュリアン神父である！」。

ジュリアンが長崎の港を出発してからちょうど四百年目にあたる一九八二年二月二十日、生誕地には顕彰碑が建てられた。毎年二月に開かれる「中浦ジュリアン祭」では、地元の人々が帆船をイメージした顕彰碑に手を合わせる姿が見られる。

ジュリアンの故郷は海沿いの静かなまちだ。布教のため九州各地を転々としていたジュリアンは、この生まれ故郷に立ち寄ったことがあっただろうか。幼い頃、彼が見ていたであろう海の方こうには上五島の島影が見えた。そこは、多くのキリシタンたちが弾圧を逃れて渡っていった場所であった。



まちは、幼い頃ジュリアンも泳いだであろう海が見渡せる。海と空の色は当時と変わらない。



記念公園に建てられたジュリアンの銅像。その左手は、遠きローマを指している。



ジュリアンがローマ教皇に謁見する場面を描いた壁画。ジュリアンの一生を決定づけた瞬間だ。

天正遣欧使節 中浦ジュリアン

中浦ジュリアン記念公園

西海市西海町中浦南郷

TEL.0959-37-0079

(西海市教育委員会 社会教育課)

中浦ジュリアン記念公園 検索

二本の橋は
見て楽しい、渡つて楽しい
絶景スポット

ふるさと再発見



西海橋

Saikai Bridge

西 彼杵半島と佐世保を結ぶ「西海橋」が架けられたのは一九五五年のこと。四年の歳月をかけ、日本の最高技術を駆使して架けられた橋は全長三百十六メートル。当時、固定式アーチ橋としては東洋一を誇り、また全国初の有料橋としても大きな注目を集めた。

それから五十一年後、真っ赤な橋に並行するように美しいアーチ線型を描いた「新西海橋」が架けられ、二本の橋は今やすっかり観光名所となってい

る。新西海橋の特徴は、なんとといっても橋の下を歩けること。橋の中央部分の足元には丸いガラス窓があり、下を覗けば、うず潮に吸い込まれそうになる。二本の橋の真下にある伊ノ浦（針尾）瀬戸は日本三大急瀬ともいわれ、海峽が大変狭いため干潮と満潮の落差が大きく、急瀬を生じさせる。うず潮の見頃は毎年三月下旬から四月の上旬。二本の橋とうず潮、そして満開の桜のコラボレーションは圧巻の美しさである。

新西海橋

New Saikai Bridge

西海橋公園管理事務所

佐世保市針尾東町2678

TEL.0956-58-2004

西海橋 検索



ら訪れた人は、動物たちが檻に入れられることなく、自由気ままに歩き回る姿を見て、皆一様に驚く。そう、バイオパークは日本で一番、動物と人間が近い動物園なのだ。

園内には約二百種二千点の動物と、約一千万種の植物が共存している。曲がりくねった道を歩くと、次々に動物たちが現れる。優しい目をしたアルパカや夫婦で毛づくろいをするアメリカカビバー、大合唱を繰り広げる小さなアヒル・コールダック、なでると気持ちよさそうにお腹を見せるカピバラなど、その愛らしさは言うまでもないが、面白いのは、それぞれに個性があること。彼らを見てみると、私たち人間も彼らとあまり変わらないのかもしれないと改めて思う。

「長崎バイオパーク」の動物たちは基本的に放し飼いである。小さい頃から「動物園＝バイオパーク」で育ってきた長崎の人にとって、動物たちが自由に暮らしている姿を目にし、触れあえることは当たり前だ。しかし県外か

日本一の動物園で
思いつきり
生きものたちと
ふれあう喜び



Nagasaki Bio Park



春

はバイオパークにとって特別な季節だ。草木が芽吹き、新しい命が次々と誕生するこの季節は、バイオパークが一年で最も輝くとき。

そしてそれはこのまちにおいても同じだ。直売所には美味しい春野菜が並び、西海橋には桜やツツジが咲き誇る。キャンプや釣りを楽しむ人、花を愛でながら散歩する人、いちご狩りや農業体験を心待ちにしている人もいるだろう。そんなそれぞれの目的や楽しみをすべて叶えられるだけの魅力がこのまちにはある。

その土地が持つ懐の深さは、そこに暮らす人々の心をも育てていく。お菓子屋さんで出会った、近くでカフェを経営しているという女性は、このまちの仲間たちと新しいものを生み出すことの楽しさを話してくれた。さいかいガイドの会の男性は、四十七年ぶりに戻ってきた故郷の素晴らしさを語ってくれた。「このまちが好きだ」という気持ちを体全体で表現しているかのような話しぶりに、こちらまで嬉しくなった。心に栄養がほしいとき、思い出すのはきっとこのまちのことだ。

春はもうそこまで来ている。

まっすぐに見つめる

その先には

命輝く春の兆し





江島手造り醤油

西彼杵半島の西方沖にある江島。この島で昔から家庭に伝えられてきた醤油は、淡い色合いと塩分が濃いのが特徴。裸麦、大豆、崎戸産の塩と水だけを原料とし、添加物は一切なし。百年以上前の製法で作られる昔ながらの醤油は、手造りのため数が限られており「幻の醤油」とも呼ばれている。

江島農産物加工センター
西海市崎戸町江島5-1
TEL.0959-36-2163

江島醤油 検索



原口みかん

西海市の中でも穏やかな海に面した沿岸部一帯はみかんの栽培に適していて、糖度が高く甘いみかんは全国的にも有名。特に西海市生まれの「原口みかん」は長崎県を代表する品種。太陽と海の反射光をたくさん浴びたみかんは、冬のごちそうだ。西海市の直売所などで購入可。



寒干大根

生の大根を天日干した西海市の名物。秋から冬にかけて各直売所で購入できる。地元ではそれぞれの家庭で醤油や昆布、みりんなどで味付けし、漬物として食すという。

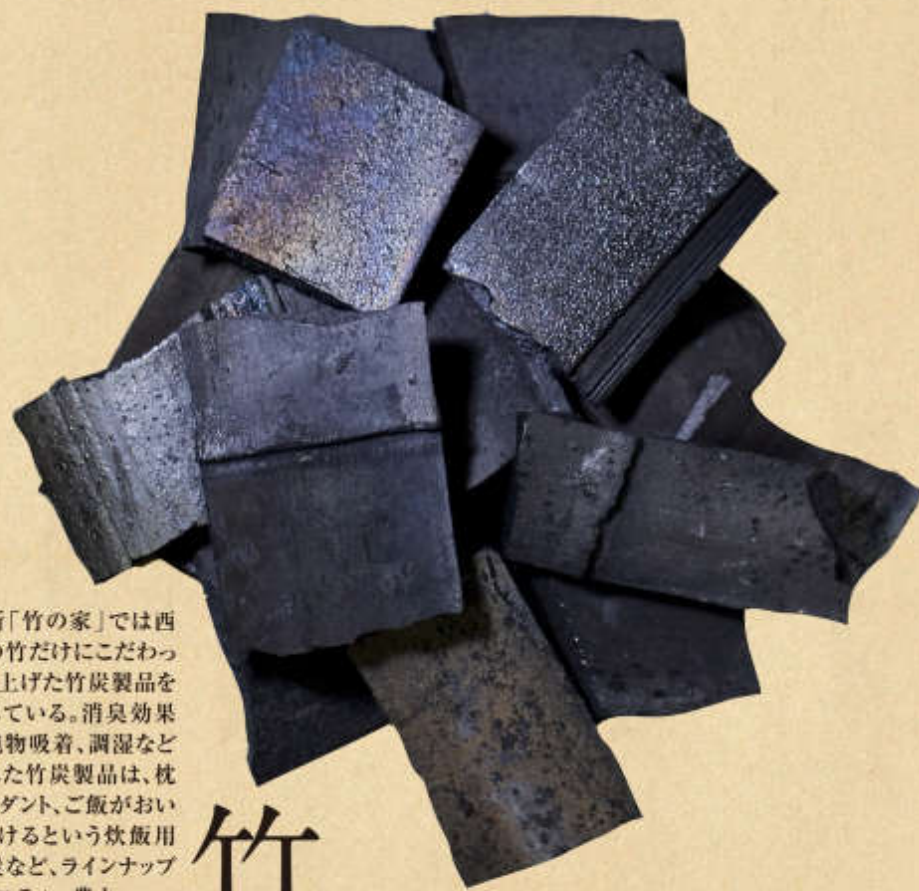
西海で出会ったものたち

るべす蛸

西海市の大瀬戸町漁協では、マダコが毎年100トン以上水揚げされる。潮の流れが速く、エサが豊富なため肉厚で身が引き締まった五島灘のマダコは、水揚げ後すぐに塩もみして浜茹で。こうして生まれた「るべす蛸」はブリッリの食感がたまらない逸品だ。

大瀬戸町漁業協同組合
西海市大瀬戸町瀬戸
福島橋1432-2
TEL.0959-22-0039

るべす蛸 検索



竹炭

直売所「竹の家」では西海市の竹だけにこだわって焼き上げた竹炭製品を販売している。消臭効果や不純物吸着、調湿などに優れた竹炭製品は、枕やペンダント、ご飯がおいしく炊けるという炊飯用の竹炭など、ラインナップもバラエティー豊か。

竹の家
西海市西彼杵町白似田1877-7
TEL.0959-27-1324

ハノ子島サブレ
西海町産みかんの
パウンドケーキ
西海町産レモンの
パウンドケーキ
西海産の旬の果物や野菜を使って、手間ひまかけて作るお菓子はどれも絶品。一番絞りの菜種油、地卵、五島灘自然海塩…など、材料にとことんこだわり、丁寧に焼き上げたお菓子は心まで温かくしてくれるものばかり。パッケージも可愛らしく、お土産にもぴったりだ。

村菓子×inaho
西海市西海町木場郷496-7
TEL.0959-32-2100

村菓子×inaho 検索



浴衣ver. すやすやカピバラ

長崎バイオパークの冬の風物詩としてすっかり定着したカピバラの露天風呂。あまりの可愛らしさに、気持ちよさそうに湯に浸かる姿を一目見たいと県外から足を運ぶ人もいほど。その人気に応じて誕生したオリジナルのぬいぐるみは見ているだけで癒し効果バツグン。

長崎バイオパーク
西海市西彼杵町中山郷2291-1
TEL.0959-27-1090

長崎バイオパーク 検索



西 海市では春と秋になると、真つ赤な幟がはためく。そこに書かれているのは「さいかい井」の文字。さいかい井とは、西

海市の食材を使って作った千五百円以下の井のこと。各飲食店が春と秋にオリジナルの井を提供している。県外からの観光客も多く、年間でなんと二万食を売り上げる大ヒットぶりである。

さいかい井が誕生したのは今から九年前のこと。西彼町、西海町、大瀬戸町、大島町、崎戸町の五町が合併し西海市が誕生した際に、全

市の取り組みイベントをしようと思案したのが始まりだった。しかし、なぜそもそも「井」なのか？ 自身も割烹民宿を営む料理人で「さいかい井協議会」の会長を務める原田親さんは、「豊かな自然に囲まれた西海市は魚、肉、卵、野菜と食材の宝庫なんです。それらを一つの器の中で盛り込むことで、いろんな味が表現できれば面白いし、井なら各飲食店も参加しやすいと考えたんです」と話す。イベントには毎回十五店舗前後の飲食店が参加しているが、原田さんの言葉通り、それぞれの飲食店が出すメニューはバラエティーに富んでいる。一口に海鮮井といっても、オーソドックス

二
コ
リ
スト
地域特集
西海市
Sakai
City

井で地域を盛り上げる

さいかい井 協議会



さいかい井フェア

毎年春と秋に西海市で行われるイベント。第15弾は4月6日(日)まで開催。井は17店舗、スイーツ井は3店舗参加。

問い合わせ
西海市観光協会
西海市西彼町喰場1686-1
TEL.0959-37-5833

さいかい井 検索

なものから伊勢エビがメインのもの、イカづくしのものなど様々だ。最近ではカフェなどにも声をかけ、旬の野菜や果物を使ったオリジナルスイーツ井の提供も始めた。これもまた女性たちに大好評だ。もともとは閑散期に客を呼び込みたいと始めたイベントだが、年々認知度が高まるにつれて週末は行列ができるほどの人気となった。井がヒットすることで、店が儲かるだけではない。地産地消の井は地元の漁業者や農家をも潤し、いい循環を生み出している。

イベント成功の陰にはもちろん努力がある。イベントが終了するたびに開かれる反省会では、客からのアンケート結果をもとに意見交換を行い、次のイベント内容やメニュー構成に反映する。「各飲食店はイベントを成功させるために結束しますが、やはり一軒一軒がライバルなんです。それがないと向上しませんね」と原田さん。

さいかい井フェアは今や西海市を代表する観光イベントとなった。昨年はその功績が認められ、「ながさき水産大賞 長崎県漁業協同組合連合会長賞」を受賞。原田さんは嬉しそうに言った。「継続は力なりを実感しています」。



恵みの歳時記

五島灘の北風と

太陽の恵みから生まれる

ゆでぼし大根

長崎県内の直売所やスーパーでよく見かける「ゆでぼし大根」。

ゆでぼし大根とは千切りにした大根を大釜でゆで、天日干しし、

寒風で一昼夜かけて自然乾燥させたもの。

大根をゆでて天日干しにすることで、生の大根に比べて栄養はギュッと凝縮される。

カルシウムは干しにした際の三十倍も含まれているという。

ゆでぼし大根は主に長崎県の西海市と五島市で作られており、

特に西海市の面高地区は全国的にも一大生産地として知られている。

毎年十二月から二月にかけて面高地区の約三十軒の農家は忙しだ。

それもそのはず、この地区のゆでぼし大根の生産量は日本一！

甘くて柔らかいゆでぼし大根を求めて、面高地区へ向かった。



ゆでぼし大根は県内の直売所やスーパーで販売。

JAタウン 検索

していることをこう話してくれた。「私たちは毎日大量の大根を扱います。そうした中で自分たちは食べ物を扱っているのだということをもいつも肝に銘じています」。トラックに積み上げられた大根も、干し場に並べられた大根も、あまりにも大量だ。これだけの量を毎日扱うとなれば、ともすれば「物」に見えかねない。しかし、あくまでも自分たちが作っているのは食べ物なのだ。上野さんは常にそう自分に言い聞かせる。そこには、農家としての自負と届ける人への愛情が感じられた。

ゆでぼし大根の楽しみ方は簡単だ。十五分から二十分、水に浸して軽く絞るだけ。鶏肉や豚肉、鯨やイカなど好みの具材と煮炊きしたり、サラダでも美味しくいただける。地元では押し寿司を作る際に、干瓢の代わりに入れるそうだ。

冬、冷たい風が吹きつけても美味しいゆでぼし大根のためだと思えば、少しは寒さも和らぐかもしれない。

ゆでぼし大根には専用の大根が使われる。その名も「大栄大蔵大根」。一般的な大根の一・五倍から二倍ほどもある大きな大根だ。身が堅く、ゆでても煮崩れせず、乾燥後も変色せずにきれいに仕上がることから、ゆでぼし大根には必ずこの品種が使われている。ゆでぼし大根づくりは、原料となるこの大根の栽培から始まる。赤土に覆われたこの地域では、美味しい大根ができるという。家族でゆでぼし大根づくりをしている上野哲郎さんを訪ねた。今や最盛期、作業場には所狭しと大根が積み上げられ、次から次へと大根がゆでられている。ゆであがった大根はすぐに天日干しにされる。

ゆでぼし大根づくりはとてもシンプルだ。しかしシンプルだからこそその難しさもある。上野さんは「天気がいいのはもちろんですが、天気がいいだけではダメなんです。冷たい風が吹かなければ大根は乾燥してくれません」と話す。海沿いの干し場に案内された。断崖の空にずらりと並んだ干し場にまだ湯気が立っている大根を手際よく広げていく。目の前の五島灘から吹きつける北西の季節風は西海地方特有のもの。この寒風なくして、ゆでぼし大根は生まれえない。海にせり出した面高地区には、冬の冷たい風が吹き付ける。これが昔からこの地域でゆでぼし大根づくりが盛んに行われてきた最大の理由だ。

干した大根は朝までそのままというわけにはいかない。大根と大根がくっつかないように、数回混ぜる。その作業は夜も行われるという。しかし上野さんは「仕事がつきついのは当たり前だから」と笑う。そして最も大切に

冷たい風が 美味しいこの 必要条件



ゆであがったばかりの大根を積んだトラックが干し場に走っていく。もうもうと湯気を上げながら走るトラックもこのまちの冬の風物詩。



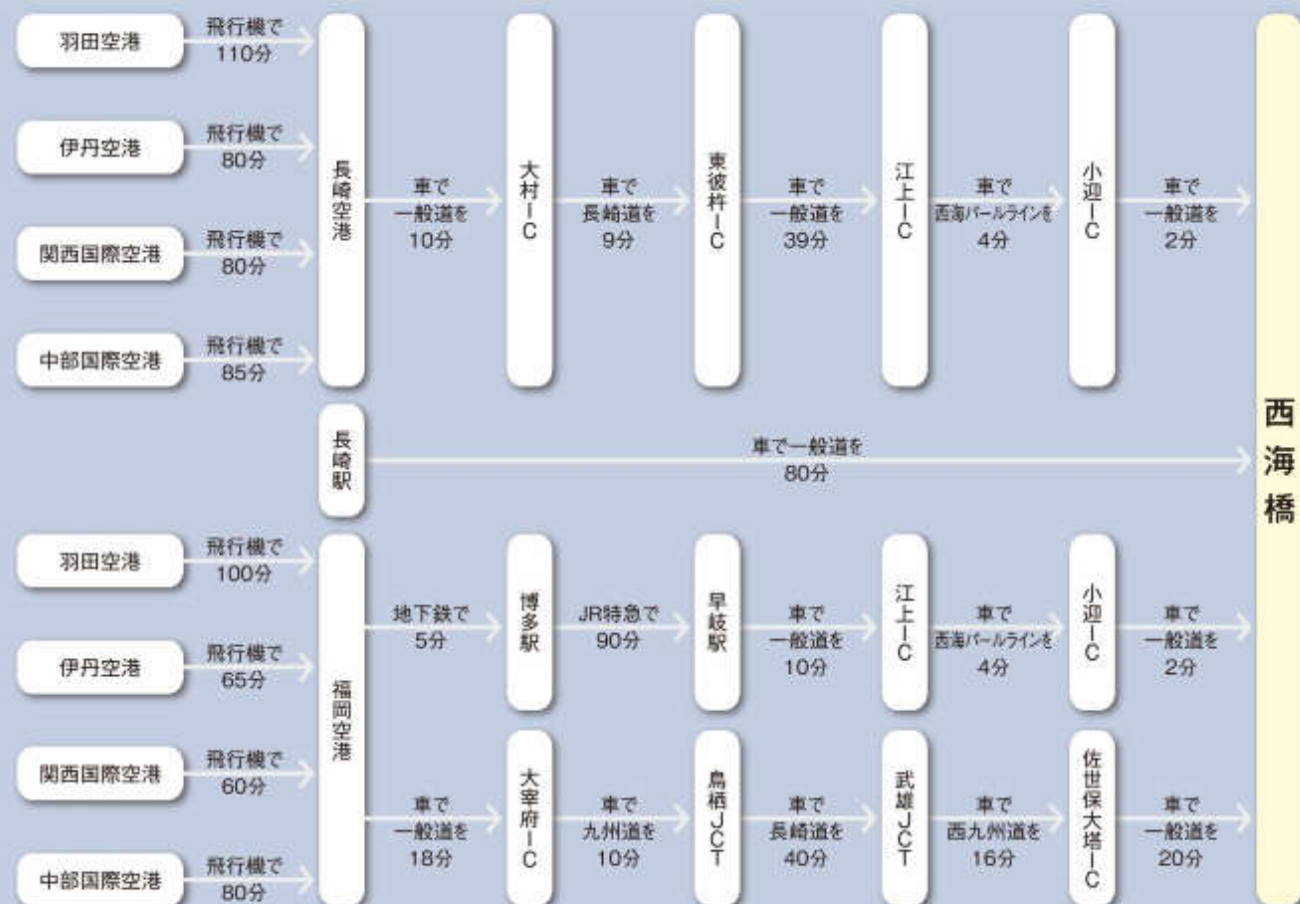
風よ吹け！ この冬も 農家は祈る



上野さんの奥様に作っていただいた「ゆでぼし大根とイカの煮物」。じんわりと深く優しい味わいが口いっぱいに広がる。



西海市へのアクセス



P R E S E N T S

にこりプレゼント Nagasaki ni-ko-ri Presents

A バイオパークペアチケット

3組

P11で紹介したバイオパークのペア入場チケットです。日本有数の飼育頭数を誇るカピバラや多くの動物とふれあう事ができる動物園です。



B 長崎四季畑「龍の泪」セット 3名様

長崎名産の「ざぼん」と希少性の高い柑橘類「ゆうこう」でつくったポン酢です。世界的なコンテスト「iTQi(国際味覚審査機構)」において、「龍の泪(長崎ゆうこう)」が三ツ星、「龍の泪(長崎ざぼん)」が二ツ星を獲得しています。

※「長崎四季畑」とは、県内の優れた農産加工品の中から全国に誇れる逸品を認定し、広く県内外にPRする長崎県の統一ブランドです。



C ポルトガル風焼き菓子 「フロイス」とハノ子島サブレの詰め合わせ 3名様

宜教師ルイス・フロイスがポルトガルから運んできた赤ワインや金平糖。そんな赤ワインや金平糖をつかった風味豊かな焼き菓子「フロイス」とハノ子島の形をしたサブレの詰め合わせです。

読者アンケート

本誌に対する皆さまの率直なご意見やご感想をお寄せください。抽選で、魅力的な県産品をプレゼントします。

締切/4月30日(水)

※消印有効

■応募方法

アンケートの回答、希望のプレゼント名、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を必ず記入し、ハガキまたは簡易電子申請システムで応募。※お一人につき、1応募まで。

■ハガキ 〒850-8570

長崎県広報「ながさきにこり」係

■簡易電子申請システム

パソコンWEBで

長崎 簡易電子申請 検索

■アンケート

Q1 本誌をどこで手に入れましたか。

(例)定期購読、県庁、観光窓口、空港、WEBなど

Q2 本誌の魅力が伝わりましたか。

- ☐ よく伝わった
- ☐ まあまあ伝わった
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり伝わらなかった
- ☐ 伝わらなかった

Q3 その理由やご意見などを教えてください。

Q4 「受け継がれる遺産」、「デザインがたり」のご感想をご記入ください。

Q5 その他、本号に対するご意見・ご感想があればご記入ください。

Q6 冊子版の定期購読(無料)を希望しますか。
☐ 希望します
☐ 希望しない
☐ 定期購読中

長崎県を元気にします!

企業誘致で地元に活力を



カネミツとの立地協定調印式(左から中村知事、金光俊明(株)カネミツ代表取締役社長、田上長崎市長)

県民所得向上の実現に向けて、県では雇用創出のための企業誘致に力を入れています。

昨年12月、自動車関連メーカーの(株)カネミツ(兵庫県)と県、長崎市は「長崎市営工業団地長崎テクノビル茂木」に研究センターと生産工場を設置する立地協定を締結しました。生産が本格的に開始されれば、50~100人規模の雇用が見込まれるということです。また今年2月には、世界的規模の保険事業を展開するAIGグループ傘下4社(※)も長崎市内への企業進出を決定。メットライフアリコ長崎ビル(長崎市常盤町)に4社が事務拠点を設け、平成27年3月末までにグループ全体で約200人を採用する予定です。

佐世保市では、約17ヘクタールの市営工業団地「ウエストテクノ佐世保」も整備されるなど受け皿づくりも進んでおり、これからも県内自治体と力を合わせて誘致体制の強化に取り組み、長崎県を元気にしていきます。

※AIU損害保険(株)
富士火災海上保険(株)
AIGジャパン・ホールディングス(株)
AIGビジネス・パートナーズ(株)



AIGグループが進出を予定するメットライフアリコ長崎ビル

ステップアップ、長崎

中村知事 県政二期目スタート



議場で職員に訓示を行う中村知事

2月2日に行われた県知事選挙の結果、中村法道知事が再選を果たしました。

翌日、早速初登庁した知事は、大勢の職員から出迎えを受けた後、記者会見に臨むなど執務を再開。2月5日には県議会議場で職員に対して、さまざまな分野の産業活性化や雇用の場の確保、世界に通用する長崎県づくり、医療や福祉など社会のニーズにきめ細かく応えていくため、県民が互いに支えあう社会づくりといった長崎県のステップアップの方向性を示し、県民所得向上や人口減少などの課題に、職員一人ひとりが危機感をもって取り組んでいくよう訓示を行いました。

中村法道知事 プロフィール

昭和25年南島原市有家町生まれ
長崎大学経済学部卒業後、長崎県庁入庁
農林部長、総務部長、副知事を経て
平成22年3月 知事就任



初登庁のようす



当選証書を受け取る知事

デザインの
モノがたり

4

ナカムラ式 eco cafs mini
株式会社ナカムラ消防化学
TEL.0957-52-1617
大村市平町1933

ナカムラ消防化学 検索

時 々、こんな不安が頭をよぎる。万一火事になって、消防車はうちの前までは来られないだろうな……。入り組んだ細い路地が多い長崎のまちでは、軽自動車しか通れない道はざらだ。私と同じ不安を抱いている人は案外多いのではないかと思う。

今回、そんな不安を解消してくれる消防車が開発された。軽自動車をベースに改造したコンパクトな消防車は、密集した住宅地や山間部の細い道もスイスイと進んでいく。しかも「eco」の装置と呼ばれる、水ではなく泡を放水する装置を搭載することで、水だけの放水と比べ、水使用量を二十分の一に削減。少量の水で大きな消火を可能にした。これぞ世界初、新時代の消防車である。

開発を手掛けたのは「ナカムラ消防化学」の五味泰洋さん。社長から「小型でパワーのある、今までになかった消防車をつくりたい」という話があったのは三年前。そのときのことを五味さんは笑いながらこう振り返った。「無理だと思いましたが――」。

通常、消防車は大型の消防車に搭載しているもので、かなりの重さがある。それを重量制限のある軽自動車に乗せるのは難しいと考えたのだ。しかし試行錯誤の末、なんとか軽量化を実現。開発を諦めなかった理由を五味さんは「自分にとって、初めてのプロジェクトでしたから」と話す。

東京生まれ、東京育ちの五味さんがナカムラ消防化学に入社したのは二〇一一年のこと。そ

れまで消防車のシャーシ（自動車の内部構造を支えるために取り付けられている骨組みのこと）の設計をしていたが、仕事をしていく中で、「消防車を丸々一台つくってみたい」と考えるようになった。ポンプ自動車をつくっているのは、日本にわずか八社だけ。五味さんは会社の理念に共感したナカムラ消防化学への入社を決意。家族を伴って、見知らぬ土地へやってきた。コンパクト消防車は、そんな五味さんにとって初めての大事な仕事だったのだ。

「消防士の方々は現場で命を懸けています。だから私は一秒でも早く消火活動ができる消防車をつくりたい」。世界初のコンパクト消防車は、使命感と誇りの結晶であった。

五味泰洋
ナカムラ消防化学
デザイナー

一九七四年東京都生まれ。二〇一一年、消防車メーカー「ナカムラ消防化学」に入社。コンパクト消防車「eco cafs mini」の設計・デザインを手掛ける。都会の狭い道路に対応できるように、水だけでなく泡も初期消火活動が可能。少量の水で大きな消火ができる。点検、修繕、工場の騒音など、様々な工夫を凝らした消防車は、業界からも注目を集めている。新たなプロジェクトもいくつか抱えている。今後の活躍が期待される。

※「長崎デザインアワード」は、県内で企画、開発された商品の中から優れたデザインを選定・表彰し、県内企業のデザイン開発意欲やデザイン力の向上に寄与することを目的として開催している。

長崎デザインアワード2013

銅賞

小さくてもパワーは絶大！
ありそうでなかった
世界初のコンパクト消防車

外装のデザインは「青＝水」「白＝泡」「オレンジ＝火」を表し、水と泡で火を包み込むイメージを表現。全面と後面には泡をイメージしたリングもデザイン。

ナカムラ式
eco
cafs
mini

操作盤を後部に集中させることにより左右どちらへも放水活動ができ、狭小地での消火活動に迅速に対応できる。



オリジナルのアルミパーシャッターはワンタッチで操作が可能。車内に設置したホースなどもすぐに取り出すことができる。

キリシタンの復活

オナジを生き抜いた人たち

文 古巣馨

text by Fumusu Kaori

削 ぎ落とせば、キリスト教は十字架と復活だけになる。新しさへのいつときの歓迎と、注がれた情熱への手応えと、ささやかな充実感。しかし、キリストの救いは歓声と妥協の道をたどることはない。すべてが過ちと罪であったかのように、同情のかけらもない十字架の道が始まる。そこには捨てられた者の孤独がうなだれている。やがて、埋葬された墓にはただ沈黙だけが支配する。

フランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教をもたらしてから六十年、記録によると日本には六十万人ものキリシタンが数えられている。南は薩摩から北は蝦夷地まで、動脈をつたう血がいつきに毛細血管を駆け巡るような勢いだった。その絆は「血を分けた兄弟

以上に固く、天下に影響を及ぼす」と、為政者の警戒心を募らせた。こうして、一六一四年の江戸幕府のキリシタン禁令は、彼らのすべてを削ぎ落とし、十字架の道へと向かわせた。賞金訴人、五人組、寺請け、踏絵、宗門改と二百五十年におよぶ陰湿な施策は異常を極めた。十字架のあとを葬り去られた人たちは深い沈黙に身を沈め、ときを待つ者となった。「あの行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない」（使徒言行録5・38・39）ユダヤ教の教師ガマリエルの言葉がキリスト教の歴史を貫く。

「ワレラノムネ アナタノムネ オナジ」

これが、二百五十年間の深い沈黙から呼び出され、群衆となって現われた人たちが口にした言葉である。一八六五年三月十七日、大浦天主堂でのできごとを、バリエ外国宣教会の報告書は「キリシタン復活」と呼んだ。「七代経てばローマからコンフェッソール（聴罪司祭）がやってくる」（バスチャンの預言）。裏切ることのないお方が叶えた約束は、復活の福音となって浦上、外海、五島、黒島、平戸、天草、今村、馬渡島へと駆け巡った。泥まみれの足で福音を伝えて走る者の鼓動が、今も時空を超えて聞こえる。「いかに美しいことか、山々を行き巡り、よい知らせを伝える者の足は」（イザヤ書52・7）。「オナジ」を合言葉に、復活に与ったキリシタンは二万人を数

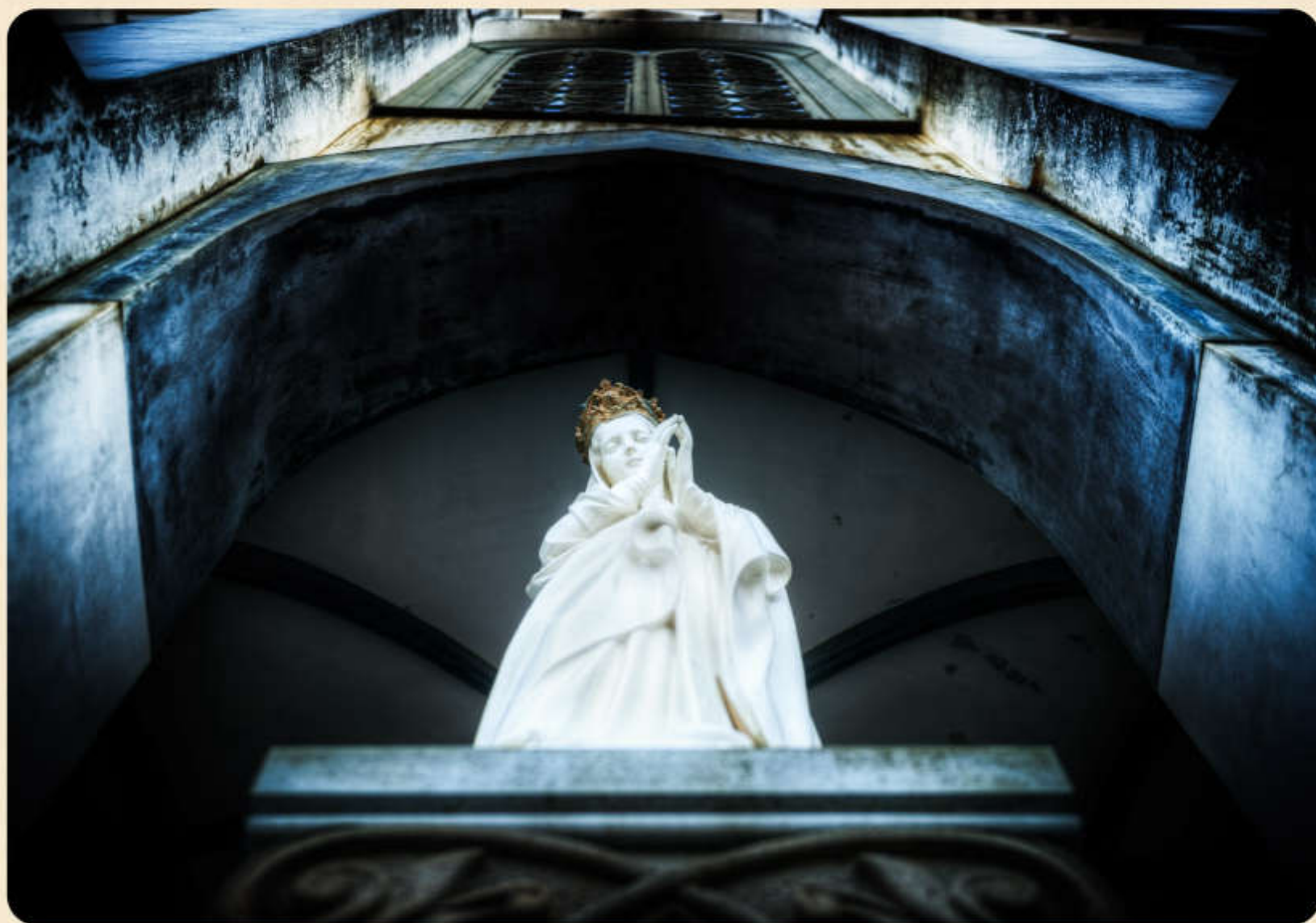
えた。伝えられた「オナジ」を読み取ったとき、このできごとは人類のかけがえない遺産となり、我々の行く手を照らすにちがいない。

何が「オナジ」を可能にしたのだろうか。「オナジ」の前身は手書きされた「どちりなきりしたん」（一五九一年国字体で印刷）にあった。途絶えることのない教育、しかも彼らは「教える」のではなく「伝える」という方法をとっている。親が生きていることを、子もまねて生きようとする。信仰は、まねごとを通してしか伝わらない。繰り返し、繰り返し刷り込まれたまねごとは、やがて究められて本物となる。いのちを育むまねごとは陳腐な人の理屈を凌駕する。

高木仙石工門、西政吉、森松次郎……「オナジ」を束ねた世話役たちの名前には、どこか職人を彷彿とする。「水方」「帳方」「聞役」が潜伏の組織の核になっていたことは知られている。その前身は「慈悲の組」「聖母の組」「聖体の組」の

世話役たちである。崩れ（キリシタン検挙事件）の時には矢面に立ち、ひたすら尽くし、最後に「すべきことをしただけ」（ルカ17・10）と言ったのけた無欲な人たちが、皆の「オナジ」に仕えた。「御神体を踏んだ足に注いだお水を飲んで何の利益もありません」（「天草吟味方控」）浦上キリシタンは、踏絵のその後をブチジャンに告げている。「事あることに、こんちりさん（完全な痛悔と救いを求める祈り）を唱えてきました」。毎年繰り返された踏絵は、やがて彼らの信仰告白と救いを求めて神に立ち返る恵みの道具となった。赦されるとき、人はまた絆を結び直してオナジになる。

大浦天主堂での告白から三年後、浦上四番崩れを皮切りに各地でキリシタン検挙事件が起こる。拷問で命を落とす者、追放先で飢えて野垂れ死にする者。それは、為政者の思惑とは裏腹に、潜伏以前から伝わった「オナジムネ」を生き抜いた人たちの鮮やかな証の場となった。そして、旅から帰還した人たちが真っ先に向かったのは天主堂建設ではなく、病や貧困で親を亡くして震える子どもたちのもとだった。十字架をくぐり復活した人たちの真の姿がここにある。「あなたの富のあるところに、あなたの心もある」（マタイ6・21）。私の遺産はどこにあるのだろうか。



大浦天主堂(長崎市)

ふるす・かおる／1954年五島市生まれ。カトリック司祭、長崎純心大学教授。著書に「まるちれす 子どものための教会史・長崎」「雲と風を友として」「ガリラヤへ」「ユスト高山石道～いま、降りて行く人へ～」など。